

西田幾多郎 未公開資料の 研究資料化

報告 8

2024

我々が《学問》と呼んで居るものは、種々の種類がある。物理、化学、生物学の如き所謂自然科学といふもの、心理学、社会学等の如き所謂精神科学といふもの、其外数学、論理学、倫理学、美学、又哲学といふ如き、少しく前の諸学と共に位置を異にするもの。それ以上以上の諸学と餘程異なつた歴史といふもの、此等の諸種の知識を廣く意味するに於て《学問》(Science, Wissenschaft)といふ名の下に総括せられて居る。

かくの如き廣く意味するに於て Science の定義は、いかん、何れも此等の知識は同一の名の下に包括せられて居るのか。

Genus differentia 西田幾多郎記念哲学館
Knowledge + Coherent + Systematized.

西田幾多郎 未公開資料の 研究資料化

報告 8

2024

- i はじめに
浅見 洋 (石川県西田幾多郎記念哲学館長)
-

- 1 写真一草稿ノート他一
-

9 第一部 報告

- 11 2024年度の一次翻刻作業について
高谷 掌子 (石川県西田幾多郎記念哲学館研究員)
- 14 2024年度の二次翻刻作業について
高谷 掌子 (石川県西田幾多郎記念哲学館研究員)
- 19 上田家資料ノート・原稿類について
高谷 掌子 (石川県西田幾多郎記念哲学館研究員)
- 29 上田家資料ノート・原稿類出典書籍索引
高谷 掌子 (石川県西田幾多郎記念哲学館研究員)
-

41 第二部 寄稿

- 43 一次翻刻作業を終えて
具志堅光星 (京都大学大学院文学研究科文献文化学専攻ドイツ語学・ドイツ文学専修博士後期課程)
- 46 金沢大学における2024年度の一次翻刻作業について
古田 哲朗 (金沢大学大学院人間社会環境研究科人間社会環境学専攻)
- 48 西田幾多郎のまねび
～竹久夢二と堀口捨己、寿美とふみの花
高橋 麻帆 (金沢工業大学非常勤講師／古書肆)

53 第三部 翻刻

- 55 「自然科学と歴史学」草稿ノート1 (O-030=iwanami019)、
2 (O-031=iwanami021) について
高谷 掌子 (石川県西田幾多郎記念哲学館研究員)
- 58 凡例
- 60 翻刻本文「自然科学と歴史学」草稿ノート1 (O-030=iwanami019)
高谷 掌子 (石川県西田幾多郎記念哲学館研究員)
- 83 翻刻本文「自然科学と歴史学」草稿ノート2 (O-031=iwanami021)
高谷 掌子 (石川県西田幾多郎記念哲学館研究員)

104 あとがき

106 執筆者一覧

はじめに

研究資料化という営み —水の上にパンを投げるように—

浅見 洋

(石川県西田幾多郎記念哲学館長)

あなたのパンを水に浮かべて流すがよい。月日がたってから、それを見出すであろう。

—「コヘレトの言葉」11章1節—

サイズはB5判からA5判へと少し小ぶりになったが、今年度も無事に『西田幾多郎未公開資料の研究資料化 報告8 2024』を刊行することができた。私が哲学館の館長に就任したのは2016(平成28)年4月からであるが、大学を退職し、館長職が主になったのが2017年度からだから、館長としての年月は研究資料化事業とともにあったと言ってもよい。ただし、本報告書制作、編集、発行はほとんど研究員の努力に負うものである。内容は研究資料化事業(翻刻作業)の「報告」、事業に関わって下さった方々の「寄稿」、そして「翻刻」の公表である。特に「翻刻」に掲載している二次翻刻の成果物は研究資料化事業の華と言ってよい。それは西田幾多郎の手書きノート類(レポート、メモを含む)を研究員、協力者がDropboxで共有し、複数で読み合わせしたものを文字に起こし、さらにそれに研究員が翻訳、典拠、注釈を加えた、当(まさ)に努力の結晶である。

とはいえ、私たちの研究資料化事業の最終目的は「報告」に掲載した翻刻を研究者に研究資料として活用していただくことである。そして、残念なことに、これまで報告書に掲載した「翻刻」の活用はこの事業に直接的、間接的に関わった研究者を除くとまだほとんどないと言ってよい。そんなふうにかこうとしていた時、ふと思いついたのが旧約聖書の「あなたのパンを水の上に投げよ」(「伝道の書」11章1節)という聖句である。

「あなたのパンを水の上に投げよ」と呼びかけられたら、どうだろうか。いのちの糧であるパンがふやけてだめになってしまう事は目に見えている。もしかしたら魚や鳥たちの餌にはなるかもしれないが、ほとんどは無駄になり、虚しく流されてしまうだけだろう。それは人間の社会的行為としては全く意味の無

い、無益な行為ではなからうか。そして、私たちの資料化事業も同じようなものでは……。そんなことを連想しながら、手元にある新共同訳聖書を開くと「コヘレトの言葉」11章1節には「あなたのパンを水に浮かべて流すがよい」に続いて、「月日がたってから、それを見出すであろう」と記されていた。私が暗記していた聖句は50年ほど前に最も広く読まれていた口語訳聖書のもので、それも前半部だけであった。知恵文学の作者は、呼びかけに続いて「ずっと後の日になって、あなたはそれを見出す」（口語訳）、「月日がたってから、それを見出すであろう」（新共同訳）と結んでいたのである。

確かに、以前に公表した資料がその存在さえ忘れていたころになって、必要になったり、求められたりすることがある。昨年の師走に、高橋ふみの新カント派理解を調べているという先輩研究者から手紙が届いた。高橋ふみ「Cohenの体系的美学より見たるチェホフの『伯父ワーニャ』」が掲載されている雑誌『小さき芽』、東京女子大学時代の高橋ふみの「卒業論文」、東京女子大学附属図書館高橋ふみ記念文庫の「図書目録」などを持っていないか、という問い合わせがあった。

『小さき芽』は戦前の東京女子大学出身者が発行していたガリ版刷りの同人雑誌である。問い合わせのあった論文はふみが東北帝国大学を卒業した翌年の1930年頃に書いたもので、1997年に刊行した浅見洋編『未完の女性哲学者 高橋ふみ資料集』（宇ノ気町教育委員会、非売品）に収録（60-64頁）したものである。所有していると思っていた『小さき芽』は見つからなかったが、幸いにも論文のコピーが手元にあったので、それをスキャンし、PDF化したものをメール添付でお送りした。

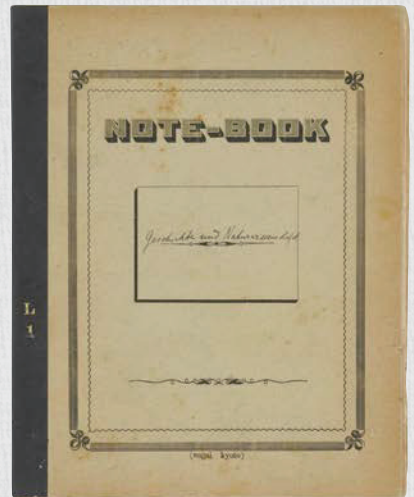
高橋ふみの東京女子大学の卒業論文「プラトンのアイデアに就いて（パイドンを中心としたる）」（1925年）は日本人女性が書いた最初の卒業論文と思われるが、今から30年程前の資料調査では現物を見つけ出すことはできなかった。また、1995年に刊行した浅見洋編『東京女子大学附属図書館所蔵 高橋ふみ記念文庫目録』（七塚町教育委員会、非売品）は、現在東京女子大学図書館が「高橋ふみ記念文庫」として所蔵している戦前の洋書約1000冊の目録である。高橋ふみが43歳の若さで、伯父西田幾多郎の後を追うようにして世を去った後、同じく東京女子大学出身の妹たみ（改姓後、太田育子）が寄贈したもので、現在でも東京女子大学では研究用図書として活用されている。フランス語、英語を除くと大半はドイツ語の哲学書であり、第二次世界大戦前のドイツ哲学の基本的文献はほぼ揃っている。この目録は手元に一冊残していたので、これもPDF化してお送りすることが出来た。

思い起こすと、『資料集』に収録した「スピノザに於ける個物の認識に就て」（東北帝国大学文科会編『文化』第1巻5号、1934年）も、宮永孝「日本におけるスピノザ」（2014年）、石神豊「西田とカントに学ぶ（最終講義より）」（2017年）、中島隆博『日本の近代思想を読みなおす1 哲学』（2023年）で取り上げられていた。

高橋ふみの未公開資料を公開したのは1995年から1997年にかけてのことである。だとすれば、月日がたってから『西田幾多郎未公開資料の研究資料化 報告』に掲載した「翻刻」の題目名を、論文の「引用文献」の中に見出すことがあるかもしれない。コヘレトの箴言を信じて、今しばらくは資料化事業の『報告書』を刊行しようと思っている。

写真

草稿ノート他



「自然科学と歴史学」草稿ノート1 (030)表紙

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十

① 二つの種類の原因がある。

② Reflexion & Willk. Grundfunktion である。 Warum である。

其の explanation である。 Grundverschiede

Richtungen である。 Warum & reflection の

双方は Ursache & tele. Zweck の双方である。

Bsp. Warum 2 Zweiseiten である。

— 其の Ursache の Kausalität の

双方 — 其の teleologisch である。

Wert の双方である。 Wert である。 Einmaliges である。 Persönlichkeit である。 (Wiederholung)

其の 2 つの双方は mix である。

を 示す。 Kulturpers. Individualität, Individualität

Love である。 psychological である

— 其の physiological である & Gehirnströme

の Bewegung である。 Love である

其の explain である。 である

individuelle Einheit

historical explanation of person & centre

~~individual~~

と 其の 原因 である。 natural causation

の Zusammenhang である。 individual Charakter 的

Zusammenhang である (Simul)

其の psychological explanation

である。 psychology である 其の 原因 である。

Theory of psy & Zns である。 Charakter である

individual & Centre である。 其の 原因 である。

其の Zusammenhang of person である。 其の 原因 である。



~~Handwritten scribbles and marks.~~

(Deutsche Bibliothek in Berlin.)

Immanuel Kant, Sein Leben
in Darstellungen von Zeitgenossen,
Herausgg. von H. Grosse

Fichte, Die Anweisung zum
seligen Leben
Herausgg. von Scholz,

Beethovens Briefe,
Herausgg. von Kricheldorf

Pierpont, Theory of
Functions of real Va-
riable, Vol I.

Windelband, Hypothese der Unte-
wissenen, ¹⁹¹⁴ (Carl Winter,
Hidelberg)

Meinong, Über die Stellung der Gegen-
standstheorie im System der
Wissenschaften
, Beiträge zur Grundlegung
der Gegenstandstheorie
, Über die Erfahrungsgrund-
lagen unseres Wissens

1914年以降の集書手帳(095)内部
ヴァインデルバント、マイノングなどの名前が見える。

Selbstbewusstsein - recurrent process
+ Zeit



Reality { practical life
moral life

Kultur "ta" 207
Moral 110 207

藝術 110 207

Kunst

西田幾多郎未公開資料の研究資料化 報告8 (2024)

2025年3月31日 発行

編集 浅見 洋・高谷 掌子

発行 石川県西田幾多郎記念哲学館

〒929-1126 石川県かほく市^{うちひすみ}内日角井1番地

TEL : 076-283-6600 FAX : 076-283-6320

E-mail : nishida-museum@city.kahoku.lg.jp

HP : <https://www.nishidatetsugakukan.org/>

出版 前田印刷株式会社出版部